



令和5年度
対エルサルバドル共和国
草の根・人間の安全保障
無償資金協力
「サンフランシスコ・メ
ネンデス市ガリタ・パル
メラ初中等学校」
引渡し式の開催



2024年10月16日、星野芳隆駐エルサルバドル日本国大使は、サンフランシスコ・メネンデス区に所在するガリタパルメラ初中等学校整備計画の引渡し式に出席した。式典にはホセ・マウリシオ・ピネダ教育科学技術大臣、ウゴ・トレント南アウアチャパン市市長、クルス・エレナ・マルケス・アウアチャパン地区教育長、ディアナ・ボルハ・ガリタパルメラ学校運営委員会会長が列席し、生徒やコミュニティのメンバーも出席した。



草の根・人間安全保障無償資金協力(APCS)によって実施されたこの計画はエルサルバドル政府による学校インフラ改善のプログラム「Mi Nueva Escuela (新しい学校)」の設計基準に沿って、学校施設の改善が行われ400人以上の生徒がその恩恵を享受する。このプロジェクトはより包括的で直接的な教育環境をもたらす教室改修となった。



事前調査によって得られた結果から**日本大使館**は、幼稚部教室の新設、2つの多目的教室と7つの既存教室改修、また施工監督、外部監査の費用をふくめた**総額190,156.00ドル**のプロジェクトの実施した。市役所は衛生設備や外構設備の改修、詳細設計作成を担当し、プロジェクトに総額21,521.50ドルを拠出し看板や記念碑の提供も行った。地域のコミュニティ及び学校運営委員会もこのプロジェクトに1051.50ドルを拠出し工事に貴重な労働力を提供した。教育省からは幼稚部教室に対して備品の提供が行われた。このプロジェクトは**総計212,729.00米ドル**となった。



駐エルサルバドル日本国大使
星野 芳隆

本プロジェクトの引渡し式に出席することができ、大変光栄に思う。

科学技術が進歩した今日でも基礎教育はすべての要。すべての国民の人生の選択肢を広げ、これを大きく変えるのが教育。高度な知識や研究を必要とする職業や大学課程は多いため、教育、特に初等教育はすべての人に重要。日本には「読み、書き、そろばん」という言葉があるが、これらの活動はあらゆる知識と学習の基礎となる。日本では、19世紀末に全国統一の学校教育制度が導入されたが、当時、政府の財源不足から、多くの小学校は地元の慈善家の寄付によって建設、整備された。このような協力と相互扶助の考えに基づいて、在エルサルバドル日本国大使館は、1990年以来エルサルバドルの様々なコミュニティへの支援を行っており、ガリタ・パルメラ初中等学校は、教育分野における224番目の支援となる。

日本大使館はエルサルバドルの地域社会の発展を支援することを引き続き約束する。



教育科学技術大臣
ホセ・マウリシオ・ピネダ

日本大使館をはじめとする関係各位の寛大なご支援による、子どもたちや青少年のための教室の全面改装という歴史的な瞬間にご一緒できることを光栄に思う。これは単なるインフラの改善に留まらず、400人以上の生徒および教員の生活向上にもつながる。

この活動は私たちが30年以上に渡り培ってきた相互信頼の絆の現れと言える。そしてこの重要な案件の完了は、教育が進歩と社会福祉の礎であるという私たちの共通認識の証でもある。

エルサルバドルの教育の中心であり根幹となる学校運営委員会の多大な努力に感謝する。



南アウアチャパン市長
ウゴ・トレント

私たち1人ひとりの努力が実り、今日、引渡し式を祝うことができ大変嬉しく思う。このプロジェクトでは、関係した全ての方々がそれぞれの重要な役割を担い、その良好な関係を維持することで、それぞれの貢献がこの学生コミュニティ全体の利益につながっている。

この学校の改装により、ここでの教育がより効果的に行われ、あらゆる面の人間の進歩に大きな役割を果たすだろう。

このプロジェクトにおいて様々な問題に直面し、またそれを適切に解決し進められたこの場所を、私は将来の世代のために最大限大切にしよう皆さんに呼びかける。



ガリタパルメラ学校運営委員会会長
ディアナ・ボルハ

私たちの学校が全面的に改装され、幼稚部の子どもたちがその年齢に合ったスペースを持てるようになったことを大変嬉しく思う。本プロジェクトはこの学校にとって重要な成果である。

この成果のために前運営委員会とともに10年以上携わってきたクラウディア・モンゲ女史の仕事は注目に値する。

日本政府の協力と生徒たちの学習に成果をもたらす教室が整備されたことに感謝する。

